



NPO 法人

ひろしま人と樹の会

会報 No. 275

□理事長 荒川 純太郎

□事務局 〒733 - 0852 広島市西区鈴が峰町 16 - 20 (中元明弘)

Tel&fax 082 - 277 - 9490 E-mail: hirosimahitotokinokai@yahoo.co.jp

□年会費 2,000 円 郵便振替 01360-4-29388 「ひろしま人と樹の会」

□編集責任者 古川ちひろ

本号の内容

<セミナーのご案内>

1. 番外編セミナー座学
広島緑を考へる講演会
～豊かな趣きのある都市美を求めて～
(1/24 : 水)
広島市南区西荒神町アークホテル広島駅南
2. 番外編セミナー
第3回松島家の屋敷林整備
(1/27 : 土)
三次市三良坂町大字三良坂字黒田

<セミナー等の報告>

1. 番外編現場セミナー
土師ダム周辺桜守事前準備
(11/27 : 月)
安芸高田市八千代町土師ダム周辺
2. 番外編 現場セミナー桜守プロジェクト
土師ダム湖畔の桜並木の手入れ
(12/3 : 日)
安芸高田市八千代町土師
3. 番外編現場セミナー 屋敷林整備
(12/2 : 土, 12/9 : 土)
三次市三良坂町大字三良坂字黒田 松島宅
4. 第238回現場セミナー 八千代町里山保全祭
(12/23 : 土・祝)
安芸高田市八千代町土師
5. 第237回炭焼き体験報告 (炭出し)
(12/17 : 日)
安芸高田市八千代町土師

<事務局からのお知らせ>

◆セミナーのご案内◆

- 1. 番外編セミナー座学
広島緑を考へる講演会
～豊かな趣きのある都市美を求めて～
(1/24 : 水)
広島市南区西荒神町アークホテル広島駅南**

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。本年も
よろしくお願い致します。

早速ですが、今年のセミナー座学は、いきなり
(一社) 広島県造園建設業協会 (会長正本
大) 等主催の講演会に協力するかたちで開催い
たします。

この機会に多くの会員の元気な顔を拝見い
たしたいのでご案内申し上げます。

内容は、街を彩り街の顔として機能している
「街路樹」がテーマです。

身近な街路樹は、倒木や舗装の持ち上がりな
どの課題がありますが広島市の戦後復興の象徴と
して重要な役割を担っています。この機会にさ
らなる緑に対する意識を市民と共に醸成したい
と思います。

講師は環境植栽学の第一人者千葉大学名誉教授藤井英二郎様です。

様々な都市での事例などわかりやすい紹介です。参加をお待ちしています。

1 日時

平成 30 年 1 月 24 日

受付 14 時 30 分 開会 15 時 閉会 17 時

講演会 無料、先着：300 名

2 場所

アークホテル広島駅南 4 階「鶴の間」

広島市南区西荒神町 1-45

※17 時 20 分から交流会「千鳥の間」（会費：4,000 円/人）があります。

申込は 1 月 19 日（金）までに事務局 中元までご連絡ください。 電話 082-277-9490

2. 番外編セミナー 第 3 回松島家の屋敷林整備 (1/27:土) 三次市三良坂町大字三良坂字黒田

12 月 2 日、12 月 9 日に行った、三次市三良坂町の松島家の屋敷林の残りの整備です。2 回の作業で屋敷の周りはずいぶん整備されましたがまだ残っている木があり 3 回目の作業です。性別年齢は問いません、それぞれに見合った作業を用意いたします。

多数の参加をお待ちしています。

1 日時

1 月 27 日（土）9 時 30 分～15 時

2 場所

三次市三良坂町大字三良坂字黒田 松島家

3 集合場所

現地（位置図参照）

4 持参物

長袖作業服、帽子、手袋、タオル、弁当、箸、お椀（お持ちの方はヘルメット、チェーンソー、ナタ、ノコなど）

5 参加費

500 円（トン汁・保険料など）

6 申込

1 月 24 日（水）までに事務局まで

NPO 法人ひろしま人と樹の会事務局行「松島家」屋敷林整備 参加申込書

名 前（ 年齢）	住 所	電話番号	備 考
()			
()			
()			

【位置図】



【拡大図】



◆セミナー等の報告◆

1. 番外編現場セミナー 土師ダム周辺桜守事前準備 (11/27: 月)

安芸高田市八千代町土師ダム周辺

平成 19 年から実施されている、土師ダム桜守活動も 12 月 3 日で 23 回目を迎えます。そのため、事前準備として、事前に天狗巣病に侵された桜や、弱って回復不可能な桜、桜の被圧になる支障木を伐倒する作業を 11 月 27 日の月曜日に実施した。



当日は、小春日和の中、今回会の活動に初めて参加された 1 名を含めて 8 名が、はじまる館に集合した。初めに桜守プロジェクトの顧問の正本大さんから説明を受けて作業に取り掛かった。正本さんの話によると、今年は土師ダムの水位がダム建設以来最高の水位に達し他とかで、湖畔の木はかなり高いところにゴミが掛かっていた。

作業は、最初ランク 3 取得者の、櫻井さん、中元が、木の安全な伐倒作業方法の、受け口の作り方、追い口の切り方を各自に指導して伐倒に取り掛かった。あらかじめ正本さんが赤テープを巻いている木に取り掛かった。危険な木にはロープを掛けて安全を確認しながら伐倒した。午前中は本番の 3 日にナメコの植菌用とする桜を伐倒した。

午後は、桜の支障木となる、クヌギ、キハダ、アメリカフウ、スギ、ヒノキなどを伐倒した。これらの木には蔓が巻き付いているものもあり思うように倒れないので、まず蔓を切り除くなど慎重に処理した。また胸高直径約 60 cm のヒノキは、櫻井さんが日ごろの腕を振るうべく慎重に突っ込み切りを行い見事に伐倒した。両側からの突っ込み切りの誤差も少なく見事なものであった。15 時に予定の木を伐倒し本番への準備を完了した。全員ケガもなく終えた。皆様お疲れ様でした。(報告者 中元明弘)



【小田さん受け口づくり】



【佐藤さん追い口を入れる】



2. 番外編 現場セミナー桜守プロジェクト 土師ダム湖畔の桜並木の手入れ (12/3:日) 安芸高田市八千代町土師

12月3日(日)第23回桜守プロジェクトに参加した。当日の参加者は100名くらいで、当会からは16名が参加した。



9時に土師ダム湖畔の「はじ丸館」の駐車場に集合し、受付を済ませると班分けが行われた。今回は10月の長雨により土師ダムができてから初めてという高水位となり、至る所にごみ流れ着いており、施肥をせずに、ごみ集めをするということで施肥班ではなく清掃班を作った。そのほかは従来通り、処理班、草刈り班、運搬班、チェーンソー班、集積班、植菌班である。当会からはチェーンソー班に櫻井さん、植菌班に畝本さんが班長に指名された。

開会式で、20回参加者として、当会の畝本暢宏さん、藤田若司さんが表彰された。おめでとうございます。長年のボランティア活動ご苦労様です。桜もさぞ喜んでいることでしょう。

山本優会長の挨拶、正本大さんの作業上の注意があった後、それぞれの班に分かれて作業を開始した。チェーンソー班は10名くらいである。班員の構成は地元のベテランからほとんどチェーンソーを扱ったことがない人である。目

が離せない人が班員に含まれており、その指導に付きりになり、全体作業の目配りがなかなかできない状況であった。作業内容は11月27日にあらかじめ伐倒した天狗巣病にかかった桜や、支障木のアベマキ、カシ、スギ等を運搬しやすい大きさに玉切る作業である。最初に植菌用(ナメコ菌打ち)の桜を玉切る。その後、桜以外の木を玉切り、午前中にはほぼ桜を処理し終え昼食となった。

昼食はいつも通り、地元の皆さんの心のこもった、おにぎり、トン汁、ヤマメの塩焼きをおいしくいただいた。いつもありがとうございます。その後、桜についての講義を正本大さんからおこなってもらった。桜の手入れをするに当たり大変参考になるお話しであった。

午後の作業は、残りの伐倒木の処理を行った。特に胸高直径60cmのスギの枝払い、玉切りには時間を費やした。15時には無事けが人もなく終えることができた。

閉会式の後、ナメコの櫓木を希望者に配って散会となった。当会がもらった櫓木は、土師ダムの炭焼き小屋の小川の辺に囲ったので、来年の炭焼きには、トン汁の中においしいナメコが入ると嬉しいですね。(報告者:中元明弘)



【上手にお手伝いできたよ！(なめこ植菌)】

3. 番外編現場セミナー 屋敷林整備 (12/2:土, 12/9:土) 三次市三良坂町大字三良坂字黒田 松島宅

ひろしま人と樹の会、事務局をお世話いただいています中元さんの奥様の御実家の屋敷林が繁茂し、風通しが悪くなっているということで、今回は三良坂に屋敷林整備に行っていました。当初は12月2日のみの予定でしたが、それでは終わらず9日にも引き続き行い、それぞれ12名と13名の参加がありました。

築200年以上というお屋敷の周りに数十本の樹木が生い茂っていました。最初に中元さんから伐る木と伐ってはいけない木の指示をいただき、各自あちこちに散らばり作業開始です。なにしろ広いお庭ですから3、4か所に分かれても安全に作業ができます。私は最初小さな雑木から整理をしていましたが、やはり大きな木に目が行き、直径40~50cmのカシの木に手を出しました。近くには建物や電線がありますし、重心方向も怪しかったので沖田さんの指導をいただきチルホールをセットして伐採をしました。いざ倒してみるとツルは絡んでいるし木の芯は部分的に腐ってツルが効かない状態だったり、チルホールなしではとても倒せる状態ではなく改めてチルホールの効果を実感しました。

倒した樹木は事前に消防署にも届けたうえで燃やしたのですが、なにぶんにも膨大な量があり、焼却が伐採に追い付かないほどでした。一緒に参加いただいたご近所の方にも燃やしていただいたり、薪にしたいからと引き取っていただいたりもしましたが、どうやらこの2日で燃やし切れず、もう1日かけて燃やし終えたということで、応援いただいたご近所の方にはずいぶんお世話になりました。

さて、この屋敷林、珍しい樹木もありました。ひとつは、「タラヨウ」。ご存知の方もあるかもしれませんが、長さ10cm余り、幅4・5cmの常緑樹のこの葉っぱは、木の枝などをペン代わりに表面に字を書くようにすると押さえつけられた部分が黒く変色します。別名「ハガキの木」とも言うらしいです。ある所にはあるようですが、めったにお目にかかれません。松島宅はこのタラヨウが何本もありました。もうひとつは「コウヨウザン」こちらは大陸中国が原産のスギの仲間の針葉樹です。今注目の樹種で、広島県庁の林業課が将来の広島県林業に大きく貢献するのではないかと研究を進めているもので早く育ち、材の強度が高く、針葉樹なのに切り株から萌芽更新をするというものです。



【コウヨウザンの伐採作業】



【玉切り後のコウヨウザン】

今回、1本だけでしたが直径60cm余りのコウ

ウザンがあり、こちらは櫻井さんが倒しました。

事前にコウヨウザンの存在が分かっていたなら良かったのですが、当日知ったものですから後日林業課にお知らせしたところ、めったにないチャンスでルーツはどこか遺伝子分析をしたということで、早速県の林業技術センターの職員の方が丸太や葉を引き取りに来られました。立木の状態で分かっていたら、高さごとの年輪を解析して成長過程が調べられたのということで、残念ではありましたが、いくらかの貢献ができたようです。

昼食は、いつもより豪華でした。両日とも豚汁に加えバーベキューを中元さんご一家に用意していただき堪能しました。中元さんご夫妻のみならず娘さんおふたりのご家族も応援に来られ、12月で寒かったとはいえ、炭火と暖かなおもてなしで、寒さを忘れる昼食をいただくことが出来ました。ありがとうございました。県北地域は過疎化が進み、屋敷林の手入れも追いつかないということがこれからもどんどん出てくるのではないのでしょうか。ひろしま人と樹の会の役割の広さを感じた今回の活動でした。そうそう、途中で故障したチェーンソーを手際

よく修理いただいた沖田さん、ありがとうございました。開いて見せていただいたフライホイール、実際に手に取ることで4つの役割が改めて理解できました。

(報告者：神川勇人)

現場セミナー屋敷林整備に参加して

「トン汁を作るということで現場セミナーに初めて参加いたしました。張り切った参加でしたが、たくさんあるトン汁の材料はあらかじめ材料ごとに仕分けされ用意されておりました。今回は水が豊富にありましたが、水のない山の中などの時は、料理済みのトン汁を持って行ったり、水を持って行ったりするそうです。裏方の支えの大きさは聞くとみるとでは大違いでした。参加の方々の、持ち場で仕事をされる様子は楽しそうにさえ見え感動しています。大木を慣れた手順で倒す様子は圧巻でした。屋敷林整備の中元さんは「家が風邪ひきそう」と言って破顔しておられました。伐採した木を燃やすのは、着火するまでに時間がかかり大変な様子でした。焚火でウン十年ぶりに焼き芋を焼いたときには子供のころにタイムスリップしていました。予定時間通りに終わり、何度も水を運び焚火を消火しました。この度は思いがけず、真の「ボランティア精神」に接することができたように思います。感動と経験は次の機会に生かしたいと思います。

(会員 横山 愛)



4. 第238回現場セミナー八千代町里山保全祭り (12/23:土・祝) 安芸高田市八千代町土師

23日、天皇誕生日は、恒例の里山保全祭り、安芸高田市八千代町「はじ丸館」で43人が参加し正月を前に、新年の縁起物を仕上げた。



開会式では、八千代町湖畔祭り実行委員会会長さんの挨拶、来賓として浜田一義安芸高田市長さんも駆けつけ祝辞を頂いた。

正月飾り、しめ縄の部門に分かれ、地元の経験豊富な指導者からアドバイスを受けながらに作り方などを教えてもらった。



正月飾りは長机の上に用意した若マツ、葉ボタン、ユリ、センリョウなどを花器に見立てた直径13cm程度のタケ筒に背筋を伸ばし真剣なまなざしで活け、葉ボタンやセンリョウなど見つめては、はさみをチョッキ、チョッキと入れて飾り付けた。

床の間に飾り、新たな気持ちで正月を迎えられると喜んでいた。

しめ縄は足で押さえ込んだ長さ1mのもち藁を両手で左巻に編み上げ、3重の輪を作ってい

た。こつと力が要る作業には、隣の方と協力しながら思い思いの形に仕上げた。



約2時間程度で編み上げダイダイやユズリハ、ウラジロ、稲穂を添えて完成。笑顔で写真に納まっていた。

門松は、今年は制作の申し込みがなかったが材料が準備されていたので当日受付で4名の方が挑戦した。

はじ丸館の外庭にシートを敷いてタケを電動丸鋸で切断した。門松はタケ3本が一組、同じ大きさを3本揃え、先端を同じ角度に斜めに切るのがポイント、斜め切断は当会の太田、沖田、神川さんが担当うまくできていた。

恒例の餅つき、地元女性会6人が準備された「もち米」を使い2臼ついた。つき手は当会員の吉田さんと地元の山本さん慣れた手つき、こね手の女性と息を合わせてペッタン、ペッタン、どんどん餅になっていった。



出来立ての餅は「きな粉餅」として美味しくいただいた。

地元の女性会から豚汁も振る舞われるなど今年も温かく迎えてもらい感謝するとともにお礼を申し上げます。

参加者は、「自分で作った特別な正月飾りやしめ縄飾りで、気持ち良く新年を迎えられる」

と笑顔だった。

戊年が良い年でありますように！

追伸

このイベントにはNHK、中国新聞の報道機関の取材があり、23日夕方のニュース番組で放映あり、24日の中国新聞の朝刊に掲載されました。

(報告者：櫻井充弘)

5. 第237回炭焼き体験報告（炭出し） （12／17：日） 安芸高田市八千代町土師

師走の恒例の炭出しには、八千代町土師ダムの湖畔炭小屋に小雪が降り続く中9名が参加した。



炭焼き体験（11/18～25日）で焼き上げた貴重な炭。雪のため野外で処理できないので炭小屋のスペースに運び出し、良い炭と粉炭みに分類処理した後、米袋に詰め数量を計測した。

総重量 308.5 kg とれた。「勘と経験」で行う炭焼き、素人の火の管理としては上々の出来栄であったと自負する。

炭出しは、いつも緊張感が漂う。何キロでるか、どんな炭が出るか、楽しみである反面心配である。

いよいよ、中元、圓光さんの手で窯の取り出し口を開けた。焼き上がりを見ると灰になり易い焚口は灰になっていたものの炭が窯内に顔を

のぞかせた。炭を取り出したたと、キーン、キーンと金属音のする硬くて、火持ちの良い良質の炭であった。



作業は合羽を着てマスク付け完全防備で圓光さんが窯に入り一本一本丁寧に窯の口に出し、選別する小屋のスペースに交替で運び出した。小屋は風通しが悪く、灰や炭粉塵が立ちこみ息も詰まる状況。マスクをしていても鼻の周りを真っ黒になって作業を進めた。

炭焼きは、額に汗する仕事で「きつい、きたない、きけん」3K的である。中腰作業で腰が痛くなる中、12月23日に開催する八千代町保全祭りの参加者に毎年炭を提供し好評を得ている。その喜ばれる笑顔を思い浮かべて行った。



炭出しは15時には終え、真っ黒になった姿のままで集合写真を撮って解散した。皆様お疲れさまでした。

(報告者：櫻井充弘)



<事務局からのお知らせ>

●寄付をいただきました。 寄付金 (敬称略)

60,000 円 (松島博)	2,400 円 (渡利慶子)	2,600 円 (沖田泰夫)	800 円 (武内)
1,000 円 (中元明弘)	1,500 円 (三上早苗)	5,100 円 (久保慶子)	2,400 円 (藤田若司)
2,700 円 (佐々木邦治)	3,000 円 (山本優)	11,760 円 (プロジェクト千里の森)	

●報告

ブルデンシャル生命保険会社の「2017 年度寄付事業」へ、森づくりフォーラムから推薦をして頂いていました。活動内容が認められ、この度、森づくりフォーラムを通じて寄付金 424,261 円 (12 月 11 日入金) をいただきました。ありがとうございました。

今後の活動に有効活用させていただきます。ご支援心から感謝申し上げます。